

「こんにちは！知事です（松山地方局）」

日時 平成19年10月18日（木）10:00～12:00
場所 ウェルサンピア伊予(伊予市)
今回は、伊予市の方々からご意見をお伺いしました。

知事との意見交換にご参加いただいた方々

	氏名		氏名
1	石田 美多嘉	11	竹田 惣一
2	稲本 孝好	12	武田 弘
3	岩西 智隆	13	田村 勝年
4	大森 秀樹	14	椽木 勝子
5	岡部 守良	15	藤岡 真由美
6	神岡 節子	16	松本 洋子
7	河江 嘉子	17	萬井 千代子
8	神山 通	18	水口 春香
9	高岡 小夜子	19	矢野 鎮男
10	竹内 政隆	20	山崎 由紀子

傍聴された方 47名

意見交換の概要

原油、原材料の高騰に対する県の対策は

伊予市で食品加工を行っているが、食品会社の今一番の問題は、原油、原材料の高騰によるコストアップで、その分を売価に転嫁できない状態である。自社努力でコストダウンを図らないといけないが、今日本中で倒産している会社の原因はこのためである。県としてできる対策があるか教えて欲しい。

(知事)

率直に言って、無いに等しいだろうと思う。かつて昭和40年代後半の石油ショックの時も国内は大混乱したが、なんとか切り抜けて今日まで来た。県ができることは中小企業の資金繰りでの融資くらいしかない。融資だから返していただく点で値上がり分の補填にはならない。値上がり分をどこが負担すればいいのかという話になるが、正直、国も県も市も手の打ちようがないと思う。

定年を迎える人を農林業へ

中山はもう何年かで限界集落という言葉が現実的になる。現状は、中山間事業でなんとか農地を守っているが、5年先、10年先には大幅減になると思う。これから定年を迎える40代50代の人を農協などとタイアップして、農林業で頑張っていけるように願いたい。

(産業経済部長)

県でも、団塊の世代の移住促進を、e移住ネットの中で進めている。いろんな話を聞く中で、地元として定年を迎えた人を受け入れても、後の老後保障の面倒を見なければいけないのかとも聞いており、そういったことも含めて、地元で十分融和できることを前提に、今後とも移住して農業に定着する方を一生懸命探していきたい。

農村環境保全環境事業の対象の拡大

今年、農村環境保全環境事業が始まり、私達の集落でも集落の上の山林を間伐し、飲み水の確保に役立てようとしたが、この事業は農地と水路が対象で山林は入らないと言われた。中山間地の場合は、集落の環境に周りの山林も含めて欲しい。

(産業経済部長)

現時点で農水省が示しているこの事業メニューの中には、残念ながら間伐事業は含まれていない。来年度以降の制度の中で、制度の変更ができるかどうか、十分に打合せをしたい。

公共施設の削減より暮らしやすさを

伊予市はアクセスがよく、住むのにいいところで、人口が増えるのが一番の望みだが、土木事務所もなくなり、がんセンターも重信にでき、法務局もなくなって不便だと思っている。お年寄りが住みやすい病院や公共施設がもっとあればと思うし、歩いて行けるとこ

ろがすごく大切だと思う。そういうことも考えて地域活性化とか、住んでいる人に対して温かい、愛媛県が自分の県を誇りに思うナンバーワンになるぐらいな県政を願いたい。

(知事)

今、県が進めているのは行政のスリム化で、地方局を再編し、機関も統合し、人員も整理して税金の負担を極力減らしている。効率的にすれば不便が出てくるのは止むを得ない面はあるが、問題はどの分野が一番必要度が高いかということで、医療の問題やバス路線などをランクづけして、軽重の度合を図っている。カバーできない部分を地域住民が助け合って役割分担していかないと、最後は職員給与のカットで賄うしかない。そんな交通整理をしている。

昔の保育料、給食費未払い金の請求

保育料や給食費の未払い問題で、愛媛県でもお金が無いというよりも、モラルの欠如で払ってない人がいるとのこと。市役所の人にはそれを知っていても、現場の保育士までは情報が行ってなくて、請求もしていないと聞いたりするが、昔払ってなくても、子供が大人になって払える状態になる場合もあると思うので、昔の未払い保育料とかを請求しているか。

(知事)

保育料の請求は市の問題で県はタッチしていない。学校給食費の未払いでは親が経費を払わないからといって、子供に差別的な対応はできない。県立病院等でも不払いが随分あるが、どうやって払ってもらうか皆悩んでいる。請求する手間や経費を考え、あきらめているケースもあると思う。責任感の無い人への徴収努力はしないといけないが、徴収経費が徴収金額を超えると困る。

愛あるブランドでのじゃこ天の規格拡大

シーサイド公園でじゃこ天を作っているが、愛あるブランドの説明会で、じゃこ天はホテルジャコ80%使用とあった。ホテルジャコは中予ではほとんど揚がらないため、規格が達成できず残念に思う。幅広く県内産で通る愛あるブランドにして欲しい。

(知事)

これは多分、宇和島じゃこ天のブランドの規格だと思う。双海の場合は、宇和島に負けない双海じゃこ天とか、そういうやり方があると思う。それぞれの個性があるわけだから、地域が創意工夫して、手元の材料でやれば良いと思う。

水産加工施設の建て替えへの支援

ちりめんや煮干等の製造をしているが、加工場が老朽化したので建て替えを計画している。南予では密着型支援事業があるようだが、知恵もお金もないので、支援や補助があればお願いしたい。

(知事)

今、南予地域活性化でいろんな手を打っている。エリアで分けないと全県的では南予への艇入れが弱まるため、南予しか認めていないものがある。ただ手助けの問題は、南予に限らず農林水産業全体の振興の立場で相談にのる。

(産業経済部長)

双海地域の水産加工施設が非常に老朽化していることは、前々から承知している。これまで農水省に定住促進対策事業があったが、来年度からそれらが集約され、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金という制度がスタートし、二分の一の国費補助もあるので、制度の活用等を地域の皆さんと一緒に検討していきたい。

高齢者就農年金の創設

私の住んでいる地域は、専業農家、兼業農家を合わせて45戸の集落で、農業従事者を年齢別に見ると、20代が1人、30代が1人、40代が2人、50歳から65歳までが6名、65歳以上が35人である。この年齢構成で分るとおり、現在の中山間地農業は高齢者によって支えられており、中山間地の農業振興対策は、高齢者を支援していくことだと思う。高齢者の支援策としては、高齢者就農年金というようなものを創設してもらえば、大きな励みとなって、長く頑張ってもらえると思う。

(知事)

高齢者就農年金、極めて貴重な提言だが、頭に浮かぶのは財源をどうするかということ。国が抜本的な問題として取り組んでいる方向性の関連もある。頑張って農業を支えている方達にどうやって報いるのか、今後の検討材料としたい。

バスの代替のマイクロバス巡回

お年寄りからいつも聞かす、バスが2回あるが不便なので、小さな福祉バスにしても、短時間に何往復もできるようにしてほしい。

(知事)

いくつかの過疎化している地域で行われているのが、バス路線は無理だけれども、バスの代替としてマイクロバスで巡回するシステムが工夫されている。問題は、人件費やガソリン代、維持費をどこが持つかということで、やっている地域では不足分を市町が負担している。伊予市に勧めてはいるが、約束はしにくいと思う。伊予市には伝える。

[対応]

意見の内容については伊予市に伝えた。

なお、伊予市では、19年度に職員による「公共交通企画検討委員会」を立ち上げ、市内の公共交通の課題抽出を行うとともに、19年度中に住民アンケートを実施し、その結果を踏まえながら今後の方策を検討することとしている。

高齢者に対する福祉施設のメンタル指導

私の母親は97歳で、デイケア等でお世話になっているが、話しの中でマイナス思考の言葉がたくさん出てくる。デイケア等の機関で、生きる楽しみ、幸せを見つけるテクニックのようなメンタル的な指導等をしてもらえるよう、県の方針として示して欲しい。

(知事)

県では3年前に在宅介護研修センターを作り、老人介護は介護される人の望むようにできるような研修等をやっている。最近の例では90何歳で寝たきりだった方がこのデイサービスを受け、生き生きと話をするようになり、歌を歌い、皆と一緒に過ごすようになった。ただ、完全無菌ではないため、何ヶ月かして肺炎で亡くなられたが、元気に孫の結婚式にも出られ、本当に生きてると実感されたと思う。介護はそうあるべきで、人生の楽しさを感じながらこの世を去ることが理想だと思っており、在宅介護研修センターはそういう考え方を全県的に普及させようと研修を続けている。

老人クラブへの助成

若い者が近くにいないため、小中学校の催しには必ず老人クラブに呼び出しがあり、いろいろ応援をしている。ところが、財政が苦しいからと、市の老人クラブ活動への助成は減っており、老人クラブの手伝いをしていた職員の数も減って、老人クラブが自ら全てをやらないといけなくなるようになると心配している。県の指導、援助が欲しい。

(知事)

老人クラブの補助金は、県も財政構造改革の中で平成18年度に減らした。老人クラブが活動してくれることで、介護を受ける度合いが減れば、介護費用のほうが格段に大きいから、相対比較して介護費用が10倍減るのであれば、これは税金の使い方として効果的だと言える。県も市町も同様の視点に立って考えることが必要と思う。

年金や医療費増額の不安の見通し

後期高齢者医療制度は、年寄りが多くなり、予想以上に健康保険制度の経営が苦しく、75歳以上からこのまま集めたのでは会計がもたないので、少し余分に持てよということだろうと思う。年金や医療費増額の不安もあるが、そこらの見通しを伺いたい。

(知事)

後期高齢者医療制度もまだ動いているが、国の立場は1千兆円を超える借金の中で、このままでは借金が増えるから、どこかを抑えないといけないという発想が、いろんな社会保障を下げる形で出てくるんだろうと思う。この問題は税制改正をして、必要な財源を保障しなければ、苦しいからといって切っていくのが正しいのかどうか。要するに国民が負担はしないがサービスは続けると不可能なことを求めているための状況かと思う。

加工の専門的技術習得の紹介

中山町のふるさと市で、ずっと加工に携わっている。いろんなご飯ものとかを作ってい

るが、マンネリ化しているので、若い人に好まれるものにも取り組みたいと思うが、専門的な加工の仕方を教えてもらえるところがわかりにくい。専門的な技術を教えてもらえるところを紹介して欲しい。

(産業経済部長)

加工に取り組みされており、より専門的な知識をとということだが、農政普及課の伊予農業指導班の職員を通じて、県の人材バンクの調理の先生等技術を持っておられる方から、講習会等で技術を習得していただくことは可能だと思うので相談いただきたい。

団塊の世代を対象にグリーンツーリズムを

中山町も少子高齢化で、農業などは放置農園とか、空家とかがこれから増えてくると思うが、そういったところを利用して、団塊の世代の人達を呼んで、日帰り型とか短期滞在型とかのグリーンツーリズムを推進する計画は、県のほうではないか。

(知事)

移住促進は、四国4県でスクラムを組んでやっており、まず体験移住からやってもらおうとしている。移住して貰うためには、住まい、農地、農機具の提供や、技術の研修等が必要になるので、その手立てを県で段取りする。問題はそうした情報提供で、いろんな形で条件提示をした上で、来ていただいた人に気に入ってもらおうよう、四国4県でスクラムを組んでやっている。

(秘書広報局長)

移住促進の件は、県の企画調整課で団塊の方々の移住促進事業を進めている。また、三番町に専門のセンターを起ち上げており、そちらでもご相談を受けて、紹介できる体制を整えているので、相談いただきたい。

伊予市の埋立地に県の水族館を

県の埋立地が伊予市にあるが、県の水族館を建てて欲しい。幼児の情操教育や青少年の育成のためにもお願いしたい。

(知事)

埋立地の問題は、県も頭が痛い。元々は伊予市の公共用地プラス住宅団地として買ってもらえる前提で造成したが、一向に買ってもらえる様子がない。今、県はあらゆる財産を必死に切り売りしながら息をつないでいる状態で、ここ数年は、県が水族館を作る体力はまず無いと思っている。

ウェルサンピア伊予の問題

このウェルサンピアの問題だが、伊予市からいろんなものが消えていくのは寂しいので、日赤とか大きい病院の移転でもあれば、助言をもらい、誘致ができたらと思っている。

(知事)

ここのウェルサンピアの話というのは、国は早く処分する方針だから、格安で手に入れや

すい点で、夢のような話だと思う。提示条件は分からないが、伊予市は将来的に貴重な大きな財産を安く手に入れることができると見ており、ウェルサンピアが伊予市の資産に早く変わることを期待している。

農業に関するビジネスモデルを

5年前から観光イチゴ園を始め、経営転換を図りながら農業を続けているが、農業の衰退で周りがどんどん荒廃地化している。近辺では建設業者が新しいビジネスチャンスとして農業を捉えているようだが、農業者自身が新たなチャンスとして捉えることができないか。県は多くの情報を持っているので農業に関するビジネスモデルを示してもらえないか。

(知事)

国は食料農業農村基本法で方向転換をし、集約化、共同作業化で、一定規模以上での品目横断的な取り組みを支援している。対象になりうるのは、ある程度の農地条件が揃ったところで、中山間地域では集約化にも限度がある。私は、中山間地の多い愛媛県の特殊事情を伝え、平地地域での集約農業と段畑等の中山間地域は条件の差をつけて対応するよう国に言っている。

山間へき地の道路整備を

公共工事が減り、道路整備は交通量の多いところへの予算配分になっていると思う。山間へき地のバス路線で離合場所が無いところは、交通量だけでなく対応して欲しい。

(知事)

道路予算の大きな財源は道路特定財源で、自動車を持っている人からの重量税や、ガソリン代の課税を財源にしているから、納税者側から言えば、交通量の多い道路の混雑を良くしろというのは当然だろうと思う。へき地で大変不便なところというのは、道路問題というよりも、地域コミュニティの活性化のための政策と思う。どちらを選ぶかは、地域としてどう考えるかの選択になると思う。

(建設部長)

山間部の道路等については、離合がしにくいとか、カーブが悪いところで、優先的に必要などところの部分的な改良を可能な限りやっていきたい。

養護学校新設の可能性は

息子が障害者で、中山から第一養護へずっと送り迎えをした。もし、養護学校を作る可能性があるのなら、松山以南の伊予市とかに作って欲しい。

(知事)

養護学校の問題は、障害者が増えている地域とか、人数等を考えながらやっており、新設の動きは今のところない。新居浜の場合は、人数が増えて今治での収容が難しくなり、新居浜でということになった。

県財政の新たな収入源の模索

財源不足だが、県に入ってくるお金は限られている。結局は我々県民が何らかの形で納税するしかないのか。新たな収入源を模索しているか。

(知事)

毎年3百億を超える歳入欠陥だから、本来は3百億円の増税をしないとたないが、正直それはない。県の税収は年に1千6百億円程度で、予算は6千億円で組んでいる。地方交付税が2千億円あったのが1千6百億円に減り、国庫補助金が1千億円あったのが7百億円に減っている。百億オーダーの財源でないと効果は上がらず、国に地方消費税を充実しろと言っている。消費税5%の内1%が地方の収入で約2兆5千億円あり、地方交付税が5兆1千億切られた半分を返せと言っている。県では、財産の売却や広告収入を模索しているが、決め手となる財源は税制改正で国で作らないと、県独自では難しいと思う。

仕事の確保に高齢者福祉施設を

先日の会で高齢の女性が、大抵の若い者が町に逃げていってしまうのに、私は一緒に暮らせて幸せだ、と言っていたが、逃げていくんじゃなく、仕事が無いからだ。中山町の特老へボランティアに行くが、大勢の職員が生き生きと忙しそうに動いており、高齢者福祉施設を作っても年寄りばかりにはならず、付随して物も人も動く。若者が仕事を持てる方策について、県もそういう視点で中山へ目を向けて欲しい。

(知事)

私が知事になってから県民所得は不景気の影響でじりじり下がっているが、平成13年だけ数字が上がった。それは介護保険制度が導入された翌年で、職員が雇用され、施設ができ、医療機器が売れ、ということで、その年だけは福祉関係の所得が増え、県民全体のレベルが上がった。それを見て、所得が上がる要因は福祉産業しかないのかなとも感じた。お年寄りが増えることによって地域が豊かになる面もあると思う。

県道工事中断箇所の対応

翠小学校の前に中山方面に抜ける県道があるが、工事が中断されている場所がある。工事を中断で放置しておく、子供の環境にも不安だ。

(建設部長)

広田双海線の工事を進めている。川の付け替え工事と橋の付け替え工事を今年中に終わるということで進めており、去年は中断していたが、今年は続ける。